

花火の撮影

一眼レフ編

1. 撮影機材について

カメラ	一眼レフカメラ
レンズ	標準ズームか望遠ズーム（撮影距離による）
三脚	割り箸三脚と呼ばれるような細いものでは役に立たない
ケーブルリリース	シャッターを指で押すとブレるのでケーブルリリースが必要
小型の懐中電灯	カメラ設定の確認用（携帯電話の画面で代用可能）
ガムテープ	レンズのピント位置固定用
予備電池	通常撮影時より電池の消耗が早い
その他	レジャーシート、黒く塗ったうちわ、日傘、虫除けスプレー等

2. 撮影場所の確保などについて



・撮影場所は、花火が打ち上げられる場所から、約300～500m位が迫力のある花火を撮影できます。

・打ち上げ場所から300～500m位の場所が確保できた場合、使用レンズの焦点距離は、標準ズームレンズの範囲で良いでしょう。

・また、花火が上がる「風上」を確保することも重要です。風下だと、次から次へ打ち上がる花火の煙が立ち込めてしまい、花火が煙まみれで見えなくなってしまいます。大きい大会では、インターネットによる案内などがありますので調べましょう。

・撮影場所でもう一つ考慮しておくことがあります。夜間の照明設備や夜間に光を発する物体（看板など）がないかどうかの確認も重要です。

・早めに現地入りし（花火の開始時刻の3～4時間程度前）、レジャーシートを敷いたらすぐに三脚のみを立てましょう。「ここで写真を撮ります」という意思表示を早めにします。

・後からきた人たちは三脚を見てその後ろに席を取るのを避けるだろうし、カメラマン達も先に立っている三脚に配慮して、自分達の撮影位置を決めるでしょう。花火が始まる直前にやってきて、高々と三脚を立てることだけはやめましょう。

この画像は場所選定の大失敗例



- ・画像の下の方に、照明灯が2灯光っているのが写っています。
- ・周りの環境を入れて、花火の大きさを表現したかったのですが、この照明灯2基の輝きが強すぎて、花火の印象が弱くなってしまいました。
- ・張り切って現地入りした時には、照明灯があることすら気が付かなかったのですが、花火が打ちあがる時間帯になると、ギンギラギンに輝いてました。

2. 撮影方法について

シャッタ速度	【バルブ】に設定し、花火の数に応じて【1～10秒】
ケーブルリリース	【バルブ】時のシャッター開閉時間のコントロール
絞り	【F11】固定
ピント合わせ	【マニュアルフォーカス】【無限遠】レンズの マーク近辺*
露出補正	【撮影画像を確認】して、状況に応じ【マイナス】補正
ISO感度	【最低感度】固定
ホワイトバランス	【太陽光】固定
フラッシュ	【発光禁止】

* レンズの マークについては、最終ページを参照。

3. 花火が始まったら



- ・本番前に、空砲が何発か打ちあがりますので、おおまかに、カメラを向ける角度を調整しておきます。
- ・花火開始時、空の明るさが残っているところも撮影してみましょう。
- ・前半15分位で、カメラ設定やピントの正確度を徹底的に確認しましょう。そして、後半のクライマックスに勝負をかけましょう。
- ・カメラのファインダーは覗かず、両目で、上がってくる花火を確認しながらリリースします。



- ・花火が上昇して行く軌跡と、花火の芯の輝きを入れましょう。
- ・中心点の輝きの無い花火写真は、ポートレートでいえば、アイキャッチの無い写真と同じです。
- ・眼にキャッチライトが入るだけで表情がイキイキしますよね。
- ・花火も全く同じで、中心の輝きは絶対はずせません。



- ・花火全体を写さないで、一部を切り取るのも面白いです。
- ・それから、花火写真は圧倒的に縦構図が多いのですが、私は、あえて横構図に拘って撮影してます。
- ・花火は縦構図の方が楽です。でもね、縦構図だとどこでも見るような写真になりがちなので、横構図花火に挑戦してます。TV画面って横長で美しい花火中継してますしね。

コンパクトカメラ編

1. 撮影機材について

カメラ	【花火モード】が搭載されているカメラ
三脚	【三脚】は割り箸系でもOK
小型の懐中電灯	カメラ設定の確認用（携帯電話の画面でも代用可能）
その他	予備電池、レジャーシート、日傘、虫除けスプレー

2. 撮影場所の確保などについて

一眼レフ編と全く同様。

3. 撮影方法について

花火モードにすると、殆どのカメラは以下の設定になります。

- ・ピントが無限遠に固定されます。
- ・絞り値は一番絞った状態（F 8 前後）に固定されます。
- ・シャッタースピードが 1.2～ 2 秒程度に固定されます。
- ・ISO感度が一番低い感度に固定されます。
- ・ホワイトバランスが固定されます。
- ・フラッシュは発光禁止になります。

シャッタースピードが2秒と花火撮影としては短いので、花火が打ちあがって開く直前のタイミングを見てシャッターをそっと押しましょう。力を入れて押すと三脚につけていてもブレちゃいます。

撮影した結果を確認しながら、構図や画像の明るさを露出補正にて調整しましょう。

Canon PowerShot G10やG11 等、の高級コンパクト機については、花火モードでの撮影方法ではなく、一眼レフ方式に準じた設定で撮影した方が、良い結果となります。

Canon PowerShot G10やG11にはケーブルリリースが別売りされていますので、それを購入して使用しましょう。シャッターを指で押すよりブレが格段に少なくなります。

シャッタ速度	1 ～ 1 0 秒	カメラのモードをM（マニュアル）にして、絞りとシャッタ速度を設定
絞り	F 8	
ケーブルリリース	有れば使用	
ピント合わせ	マニュアルフォーカスにして、無限遠に設定	
露出補正	撮影画像を確認しながら、状況に応じマイナス補正	
I S O 感度	最低感度に固定	
ホワイトバランス	太陽光に固定	
フラッシュ	発光禁止	

花火撮影のポイント

- ・短期間に集中して花火撮影に行くと、良い写真を撮ることが出来るようになります。
- ・特に7月中旬から8月は、花火大会が集中してます。大きな大会を狙って撮影に出かけると良いでしょう。（打上数が1万発前後が目安）
- ・大きな花火大会だと、2時間位花火が上がりますので、時間に追われずに撮影できるのが良い点です。
- ・デジカメは何枚でも撮影できるのが最大の利点ですので、出来るだけ多くシャッターを押しましょう。

関東地方の花火大会ガイド <http://hanabi.e-tsl.net/>

・レンズの マークについて

廉価なレンズにはこの 表示のない、つまり、レンズの距離表示のないものがあります。

表示があるレンズでは、ピントリングを回していくと、この 表示を通り越して回るように設計されてます。

自分のレンズの無限遠の位置は、この マークを目安に、きちんと把握しておきましょう。